

作成年月日	令和元年8月26日
作成部局 課室名	産業労働部国際局 国際交流課

## 知事の海外出張概要（ロシア連邦（ハバロフスク地方・沿海地方））

井戸知事は、8月19日（月）から22日（木）までの4日間、ロシア連邦ハバロフスク地方ハバロフスク市と沿海地方ウラジオストク市を訪問した。

本県とロシア・ハバロフスク地方は、1969年（昭和44年）に友好提携に関する協定を締結して以来、今年で50周年を迎えた。この節目の年にあたり、両県地方の交流と相互理解を一層推進するため、知事を代表とする友好代表団、議会訪問団、県民交流団、経済訪問団、町村会訪問団の全5団約70名でハバロフスク地方を訪問し、同地方政府知事との交流協議や共同声明調印式、記念レセプション等に参加、また、ひょうご経済セミナーを開催し、経済交流の促進を図った。

併せて、経済発展が著しく近年日本との関係が深まっている沿海地方ウラジオストク市を訪れ、沿海地方政府と今後の交流の可能性について協議を行ったほか、現地企業の視察を行った。

### 1 ハバロフスク地方

#### （1）兵庫県・ハバロフスク地方50周年記念事業の実施

##### ① フルガル知事との交流協議・共同声明調印式

ア 日時：令和元年8月20日（火）16:00-17:00

イ 場所：ハバロフスク地方政府公館

ウ 参加者：

（ハバロフスク地方側）

フルガル知事、フラポフ第一副知事兼知事府長、ヴィチコ保健大臣、フェドソフ文化大臣、クズネツォワ教育・科学大臣 ほか 全10名（兵庫県側）井戸知事、長岡県議会議長ほか議会訪問団、東根県民交流団団長、伊藤経済訪問団団長、山名神河町長 浜上香美町長 ほか 全29名（在ハバロフスク日本国総領事館）福島総領事、諸富副領事

エ 内容：

（ア）交流協議・共同声明調印式

5年ぶりにハバロフスク地方政府を訪問し、2018年9月に就任したフルガル知事と初めて面談を行い、これまでの50年に及ぶ両県地方の友好提携の成果を改めて確認するとともに、引き続き、経済、人材育成、青少年交流など幅広い分野における今後の一層の交流推進について意見を交換した。

フルガル知事から、これまで50年の交流を振り返り、「このとりプロジェクト、ニューリーダー事業や青少年スポーツ・少年少女交流などの多様な交流が続いており、両地域に信頼関係が築かれ、お互いの発展に寄与している。また、関西では阪神・淡路大震災や昨年の関西国際空港が被害を受けた台風被害等の自然災害があったが、ハバロフスク地方も現在アムール川が増水しており、洪水被害の対策を行っている。このような防災分野についても、相互に協力していきたい。今日は井戸知事から今後の交流推進に寄与するご提案をいただけるものと期待している」とのあいさつがあった。

これに対し井戸知事から、「まず水害の対応の中、訪問団受け入れに対する謝意とともに、今回の訪問の趣旨として兵庫県とハバロフスク地方は様々な分野で交流を進めてきたが、両地域の交流は、人と人、地域と地域が顔の見える交流を積

み重ね、育んできた貴重な財産であり、友好提携 50 周年を迎えて、今後ますます交流を深めていきたいとの挨拶を行った。それに加えて、コウノトリプロジェクトについて、兵庫県から贈った 4 羽のコウノトリのうち、生存している 1 羽はモスクワの繁殖プログラムに参加していると聞いているので、兵庫県から再度贈れるように検討していくこと、医療分野については、こども病院間の提携が進んだが、神戸医療産業都市には先端医療技術の国際的な研究開発拠点あるため、先端医療分野での交流の可能性があること、また防災についても、両県地方でノウハウを共有しながら取り組みを行っていききたい」と伝えた。

続いて行われた意見交換では、関西—ハバロフスク間の直行便の必要性について両知事も必要性を認識しており、関係機関への働きかけを強めていくこと、また小児医療について、兵庫県の粒子線医療センター、こども向け陽子線センターをはじめとする先進的な医療施設の状況を説明し視察を勧めたところ、医師の経歴を持つフルガル知事は必ず訪問するとの強い意欲を示した。

日露両政府間では、2020～2021 年を日露地域・姉妹都市交流年として位置づけており、これに合わせてフルガル知事を代表とするハバロフスク地方訪問団の来県を強く求めた。最後に、各訪問団より、今回の訪問に関する感想等が述べられた。

その後、両知事による「兵庫県・ハバロフスク地方友好提携 50 周年記念共同声明」の調印が行われた。(※別添資料 2)



(交流協議の様子)



(共同声明に調印する井戸知事)



(共同声明披露の様子)



(記念撮影)

(イ) こども病院間の協力に関する覚書交換 (※別添資料 3)

両知事立ち会いのもと「兵庫県立こども病院とハバロフスク地方公営 A. ピオトロビッチ記念こども病院における協力に関する覚書 (事前に相互調印済)」が兵庫県側水口国際局長とハバロフスク地方側ゴンチャロフ病院長により交換された。

この提携は、2 年前にひょうご海外研修員として、A. ピオトロビッチ記念こども病院のウリアノヴァ副院長が来県して同病院で研修したことをきっかけに、提

携を行うこととなり、両地域の次世代を担うこどもたちへの小児医療の相互の学術、臨床的知識を深め、また相互理解や人材育成等を推進することを目的としている。



(こども病院覚書の交換)

## ② 兵庫県・ハバロフスク地方友好提携 50 周年記念レセプション

ア 日 時：令和元年 8 月 20 日（火）19:00-20:30

イ 場 所：インツールリストホテル

ウ 参加者：

(ハバロフスク地方側)

フルガル知事、セルゲイ議長、フラポフ第一副知事兼知事府長  
ほか約 30 名

(兵庫県側) 井戸知事、長岡県議会議長をはじめとする兵庫県訪問団 約 70 名  
(在ハバロフスク日本国総領事館) 福島総領事、諸富副領事

エ 内 容：

兵庫県からの訪問団全員約 70 名とハバロフスク地方政府関係者約 100 名が参加し県・地方友好提携 50 周年を記念するレセプションが盛大に開催された。

レセプションでは、フルガル知事と井戸知事双方より祝辞が述べられ、参加者に対し、井戸知事から共同声明で調印された今後の交流内容に関して報告があり、両県地方の交流推進を改めて確認するとともに、和歌が披露された。

「はばたけ 口日の友好に 奮闘 素晴らしい 黒ダイヤの 50 年」

(ハバ) (ロ) (フ) (ス) (ク) (50 年)

長岡議長からは、ロシア語による乾杯のあいさつの後、議会訪問団によるロシア語での合唱が披露され、会場からは大きな拍手があった。また、ロシアの歌唱グループによる歌が会場を一層華やかにし、歓声と手拍子、最後にはグループにあわせて参加者一緒に歌を唄うなど、レセプションは最高の盛り上がりの中、参加者全員の心に残るものとなった。



(井戸知事の挨拶)



(ハバロフスク側から歌の披露)



(議会訪問団による歌の披露)



(両知事の交歓)

## (2) ひょうご・神戸経済セミナーの実施

### ① ハバロフスク日本センター訪問

ア 日 時：令和元年8月20日(火) 10:00-10:30

イ 場 所：ハバロフスク日本センター所長室

ウ 参加者：

(日本センター側) 石島所長

(兵庫県側) 井戸知事、伊藤経済訪問団団長、水口国際局長、経済訪問団員  
ほか 全8名

エ 内 容：

ハバロフスク日本センターは、日本国政府が平成6年(1994年)以降、ロシアの市場経済改革支援の一環として、将来のロシア経済を担い、日露経済関係分野で活躍される人材を発掘し育成することを目的として、経営関連講座・日本語講座等様々な技術支援を行うため、6都市に日本センターを設置。ハバロフスク日本センターは平成6(1994)年に最初の日本センターとして設置され、現在も日本語の研修やビジネスマッチングにおいて活発に活動、日露交流の拠点となっていること等の説明を受けた。

### ② ひょうご・神戸経済セミナーの実施

ア 日 時：令和元年8月20日(火) 10:30-12:00

イ 場 所：ハバロフスク日本センター

ウ 参加者：

(ハバロフスク地方側) マクシネンコ極東商工会議所議員、現地企業 ほか  
全20名

(兵庫県側) 井戸知事、伊藤経済訪問団団長、水口国際局長、経済訪問団員 ほか全24名

エ 内 容：

ハバロフスク地方との経済交流を促進するため、兵庫県内企業が参加した経済訪問団によるひょうご・神戸経済セミナーを開催した。

(ア) マクシネンコ極東商工会議所議員挨拶

井戸知事、経済訪問団のハバロフスク地方来訪を心から歓迎する。兵庫県は工業、製造分野において、関西地方のリーダーである。両県地方がお互いに発展していくことは重要であり、長期的利益的な関係を築けることを期待している。

(イ) 井戸知事の挨拶とプレゼンテーション「ひょうご・神戸の経済を支える産業の魅力」 (※別添資料4(1))

兵庫県とロシアは、1868年の開国前から、高田屋嘉兵衛などの活躍により双方の往来が行われてきた。1868年の兵庫県成立以降も様々な分野で交流が続いている。ハバロフスク地方とは、1969年の友好提携に関する共同声明以降、県

鳥であるコウノトリを通じた交流や青少年交流団の相互派遣など、50年の長きにわたり着実な交流の歩みが継続している。

兵庫はものづくり産業が盛んであり、特に瀬戸内海側は「ひょうごメタルベルト」として鉄鋼業や非鉄金属業などが特に盛んである。今後、AI・IoTや航空機、ロボット、次世代エネルギー、医薬品といった新たな成長分野の育成が重要である。水素分野においては、川崎重工業が新しい水素の製造実験を始めている。

神戸では、関西の産学官連携による日本最大の健康医療クラスターとして「神戸医療産業都市」が形成され、350社を超える国内外企業が集積している。こうしたビジネス環境の背景には、外国人学校や外国人コミュニティが充実し外国人が住みやすい環境が整っていることや、37の大学が立地していることがあげられる。兵庫県立大学には本年からグローバルビジネスコースが設置されたことから、ロシアからの留学生も期待している。外国人旅行者の誘客については、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることは世界でもよく知られているが、兵庫・関西では、2019年のラグビーワールドカップ、2021年のワールドマスターズゲームズ関西までの3年間を「ゴールデンスポーツイヤーズ」として世界にアピールしている。このほか、2025年には「大阪・関西万博」が開催される。万博会場と連携した取組を関西全体で展開していくので、ハバロフスク地方の企業や関係機関には是非関西にお越しいただきたい。

(ウ) 兵庫県経済訪問団参加企業・団体の紹介 (※別添資料4(2))

経済交流団参加企業・団体14社が、順に企業・団体の紹介と事業概要の説明を行った。

(株)イトデンエンジニアリング、明石プラスチック(株)、川崎重工業(株)、Kawasaki Heavy Industry Russia LLC、(株)神戸製鋼所、中田工芸(株)、三和鉄工(株)、昭和精機(株)、大阪神戸冷食(株)、角南商事(株)、谷商(株)、神戸中央冷蔵(株)、(株)ミック、日本貿易振興機構

(エ) ハバロフスク地方参加企業・団体の紹介 (※別添資料4(3))

ハバロフスク地方の参加企業・団体18社が、順に企業・団体の紹介と事業概要の説明を行った。

極東商工会議所、オリオンホールディング、トクモ、フォグストリーム、ダリネヴォストチナヤ・トルファナヤ・コムパニヤ、ハバロフスク地方産業開発基金、ヴィトソフト、アルターファクト、ペ・エム・カ、ヴァニノ・シッピング・ターミナル・バイオマス、ハバロフスキイ・アエロポルト、ストロイテリナヤ・エクスペルティザ・デ・ヴェ、トリ・キタ、ラヴィオリ、アユス・ロジスティックス、メルクリイ、モロゾヴァ・オクサナ財務コンサルティング、ハバロフスク地方政府経済発展省

(オ) ネットワーキング

セミナー終了後、両県地方からの参加企業・団体による名刺交換や新たなビジネスの展開について、積極的に意見交換がなされた。



(井戸知事によるプレゼンテーション)



(交流会の様子)

### (3) ニューリーダー研修修了者等との意見交換会

① 日 時：令和元年8月19日(月)19:00-21:00

② 場 所：ハバロフスク市内レストラン

③ 参加者：

(ニューリーダー) シェルバコフ ハバロフスク地方政府儀典・秘書局長、  
ハチャイ極東地域日本投資促進会社 CEO、レオノフ氏

(ひょうご海外研修員) ウリアノヴァ A. ピオトロビッチ記念こども病院副院長、  
ゾロドゥヒン ハバロフスク地方政府国際交流課職員、シ  
ェルバコフ氏

(ハバロフスク地方政府) ベロウス ハバロフスク地方政府国際交流課職員  
(兵庫県側) 井戸知事、水口国際局長 ほか全5名

④ 内 容：

井戸知事は、平成3(1991)年度から平成19(2007)年度に兵庫県で実施されたハバロフスク地方の若手人材の研修事業であるニューリーダー事業(※1)やその後継事業として平成20(2008)年度から現在も継続しているひょうご海外研修員受入事業(※2)の参加者6名と懇談した。

井戸知事からは、「ニューリーダーOB等が今でも両県地方や日露間をつなぐ架け橋として広い地域、幅広い分野で活躍されていることを喜ぶとともに、これからも兵庫県の親善大使として、重要な役割を担っていただきたい」とのあいさつがあり、参加者を代表してシェルバコフ ハバロフスク地方政府儀典・秘書局長から、「このたび自らが政府の担当部署の局長として知事をお迎えできることを誇りに思っている。兵庫を研修で訪れた最も大きな成果は人と人が繋がったこと、そのネットワークの力だ。今日も井戸知事はじめ、県関係者のみなさんに再会でき、大変うれしい。この事業の大きな意義を感じる」とあいさつした。また参加者からは、ハバロフスク地方政府のみならず、大学や企業、政府など多方面で活躍中の近況や、現在も何らかの形で兵庫県と関係を持っていること、また今日の出会いを契機にさらに兵庫県との関係を進めていきたい等が語られた。

兵庫県での思い出に花を咲かせた後、現在はひょうご海外研修員の受け入れというかたちで継続している人材育成事業の重要性を改めて再認識し、次の55周年での再会や兵庫県への再訪を約束した。

#### ※1 ニューリーダー事業 (H3(1991)年度～H19(2007)年度)

ハバロフスク地方の優秀な青年を兵庫県に招聘し、県国際交流課に所属して県政の研究および生活文化体験の機会を提供することにより、将来にわたって友好を深め相互の新たな発展に資することを目的に実施された。

#### ※2 ひょうご海外研修員受入事業 (H20(2008)年度～：上記(1)の後継事業)

本県友好姉妹州省をはじめとする諸外国から優秀な青年を研修員として受け入れ、研修機会を提供することにより、課題解決型の交流を促進する。



(ニューリーダーOB等との再会)

#### (4) 在ハバロフスク日本国総領事館訪問

- ① 日 時：令和元年8月20日(火) 14:30-15:00
- ② 場 所：在ハバロフスク日本国総領事館
- ③ 参加者：  
(在ハバロフスク日本国総領事館) 福島総領事、諸富副領事  
(兵庫県側) 井戸知事、長岡議長ほか議会訪問団、水口国際局長 ほか 全16名
- ④ 内 容：

井戸知事と長岡議長をはじめとする議会訪問団は、日本総領事館を訪問し、福島在ハバロフスク日本国総領事からハバロフスク地方の地方情勢についてブリーフィングを受けた。

福島総領事から、兵庫県訪問団への歓迎の意とともに、改めて兵庫県ハバロフスク地方友好提携50周年への祝辞が述べられ、引き続き経済・文化・青少年・環境などの面での交流拡大を望むとのあいさつが行われた。さらに、2020～2021年は日露地域・姉妹都市交流年であり、記念事業が行われることを期待するとのコメントがあった。

井戸知事からは、総領事の訪問団の来訪に係る協力への謝意を述べ、今後の両地域の交流推進への総領事館の今後の支援を依頼した。

その後、福島総領事より最近のハバロフスク地方の政治、経済情勢について説明いただき、意見交換が行われた。



(ブリーフィングの様子)



(総領事館前にて記念撮影)

#### (5) ハバロフスク国際空港国内線新旅客ターミナル視察

- ① 日 時：令和元年8月19日(月) 17:45-18:15
- ② 場 所：ハバロフスク国際空港国内線新旅客ターミナル
- ③ 参加者：  
(ターミナル側) コンドラチック インターナショナルエアポートハバロフスク  
社長、山崎双日株式会社ハバロフスク駐在員事務所長 全2名  
(兵庫県側) 井戸知事、水口国際局長 ほか全4名  
(在ハバロフスク日本国総領事館) 福島総領事、諸富副領事

④ 内 容：

井戸知事は、コンドラチック インターナショナルエアポートハバロフスク社長の説明により、2019年9月末オープンに向けて整備が進むハバロフスク国際空港国内線新旅客ターミナルを視察した。2016年ソチでの首脳会議で安倍総理からプーチン大統領に提案された「日露8項目の協力プラン」における「極東における産業振興、アジア太平洋地域に向けた輸出基地化」として、2018年12月に日露企業間（双日、日本空港ビルディング、JOIN等）で、株主間契約に基づき整備が進められた。



(ターミナルビル内部の様子)



(施設の外観)

(6) 日露予防医療診断センター（仮称）の設置

ハバロフスクにおいて「日露8項目の協力プラン」に基づき、国際空港新旅客ターミナル整備のほか「医療水準を高め、ロシア国民の健康寿命の伸長に役立つ協力」として、丸紅とロシア鉄道公開株式会社との間で、「日露予防医療診断センター（仮称）」の設置に向けた検討が進められている。

同センターにおいては、日本の医療機関による医療従事者への教育支援や遠隔コンサルテーション等のもとに、健康診断をはじめとして質の高い予防医療の提供を行うこととしており、2021年の開業を目指している。

(7) 日本人墓地墓参

① 日 時：令和元年8月20日（火）9:00-6:30

② 場 所：ハバロフスク市郊外日本人墓地

③ 参加者：井戸知事、東根県民交流团团長、伊藤経済訪問团团長、山名神河町長 浜上香美町長 水口国際局長 ほか

④ 内 容：

知事を代表とする友好代表団、県民交流団、経済訪問団、町村会訪問団が、ハバロフスク郊外の日本人墓地を訪れ、シベリア抑留によりハバロフスク周辺で亡くなった日本人に対し献花と墓参を行った。

墓参では、井戸知事をはじめ各団の代表が順にお花をお供えし、参加者全員でご冥福をお祈りした。ハバロフスク日本人墓地には、9名の兵庫県出身者が眠っており、兵庫県出身者の墓を探し出しては手を合わせた。また、議会訪問団は前日に墓参を行った。



(井戸知事の献花)



## (8) 中央市場視察

- ① 日 時：令和元年8月20日（火）13:30-14:00
- ② 場 所：ハバロフスク市内中央市場
- ③ 参加者：  
（市場側） ソコロヴァ中央市場副社長（営業担当）  
（兵庫県側） 井戸知事、水口国際局長ほか 全5名
- ④ 内 容：

井戸知事は市内最大の市場であり、ハバロフスク市民の台所である中央市場を視察した。屋内には食肉や燻製、乳製品、ロシアのお菓子が販売されており、日本の食料品を扱う店もあった。屋外には屋台が連なり、ダーチャ（郊外にある菜園付きのセカンドハウス）で採れた野菜やフルーツ、森で取れたハチミツ等が売られており、多くの市民で賑わっていた。屋外の野菜売り場は、生産者が費用を負担しスペースを購入後、そこで自由に育てた野菜を販売する仕組みとなっていた。ソコロヴァ副社長からは、常に出店希望が多く、現在スペースはすべて埋まっているという説明があった。



(視察の様子)



(屋外設備の視察)

## 2 沿海地方訪問

### (1) 沿海地方政府シェルビナ第1副知事との交流協議

- ① 日 時：令和元年8月21日（水）12:00-12:40
- ② 場 所：沿海地方政府会議室
- ③ 参加者：  
（沿海地方政府側）  
シェルビナ第1副知事、コルモゴロフ国際協力局副局長、ヴォロサストフ外務省代表副局長、マルシェフ国民保護局局長代理 全4名  
（兵庫県側） 井戸知事、水口国際局長 ほか全5名  
（在ウラジオストク日本国総領事館） 中村総領事、櫻木副領事
- ④ 内 容：

今回、急遽、水害対応中のコジェミャコ知事に代わり、シェルビナ第1副知事と面談、両県地方間の経済、人材育成、青少年交流など幅広い分野における交流の可能性について意見を交換した。

シェルビナ第1副知事から歓迎のあいさつとともに、観光分野では相互の情報交換の促進、農業分野では家畜飼料の輸出に関する協力関係の構築、将来性が見込まれる医療分野での連携、廃棄物処理についての協力、また防災分野に関して、兵庫県の経験を学びたい等の積極的な交流推進の提案がなされた。

これに対し井戸知事からは、温かい歓迎に対する謝意と水害被害に対するお見舞いに加えて、兵庫県は北東アジア自治体連合の防災分科委員会を通じて防災のノウハウを広く北東アジア地域に提供してきており、この枠組を通じて、さらに支援できることがあるとの提案や、翌日には経済訪問団とともにルースキー島を訪問するためそこから新たなビジネスの可能性が広がることを検討する等の発言があった。井戸知事のウラジオストク訪問は今回が初めてであり、これを契機に

互いに交流を積み重ねていくことが重要であり、相互に交流に努めていくことを確認した。また、近い将来にコジェミャコ知事の来県を歓迎することを伝えた。



(交流協議の様子)



(記念品贈呈)

## (2) 在ウラジオストク日本国総領事館訪問

① 日 時：令和元年8月21日(水) 18:00-20:00

② 場 所：在ウラジオストク日本国総領事館 総領事公邸

③ 参加者：

(在ウラジオストク日本国総領事館) 中村総領事、豊島次席、櫻木副領事 全3名  
(兵庫県側) 井戸知事、水口国際局長 ほか全5名

④ 内 容：

井戸知事は、在ウラジオストク日本国総領事公邸を訪問し、中村総領事から現在のロシア、ウラジオストク情勢についてブリーフィングを受けた。

中村総領事から、初めてウラジオストクを訪れた井戸知事への歓迎の意とともに、兵庫県ハバロフスク地方友好提携50周年への祝辞が述べられた。続いて、今後の沿海地方との経済・文化・青少年・環境などの面での交流が行われることを望むとのあいさつが行われた。

井戸知事からは、総領事公邸招待への謝意を述べ、今後の両地域の交流推進への総領事館の支援を求めた。

その後、経済状況や風土などウラジオストク・沿海地方の現情について、意見交換が行われた。



(総領事公邸にて)

## (3) ウラジオストク駅視察

① 日 時：令和元年8月21日(水) 15:30-15:45

② 場 所：ウラジオストク駅

③ 参加者：井戸知事、水口国際局長 ほか全5名

④ 内 容：

シベリア鉄道の起点であるウラジオストク駅を視察した。現在の建物は1912年2月に竣工したもので、シベリア急行鉄道「ロシア」号がウラジオストクからモスクワまでの9,288 kmを6日間で結んでいる。

この駅には、日本、韓国などとの航路を持つフェリー乗り場である「海の駅」が隣接している。



(ウラジオストク駅外観)



(プラットフォームの様子)

(4) 極東電力熱併給発電所視察

① 日 時：令和元年8月22日(木) 9:00-9:30

② 場 所：極東電力熱併給発電所

③ 参加者：

(極東電力側) アントン 極東電力熱併給発電所チーフエンジニア、ビクトル技師、  
大門 Kawasaki Heavy Industries Russia LLC 社長

(兵庫県側) 井戸知事、伊藤経済訪問団団長、水口国際局長、経済訪問団員 ほか  
全24名

④ 内 容：

ルースキー島の極東電力熱併給発電所を訪問し、アントン チーフエンジニアに川崎重工業が明石工場にて製造し、納入したガスタービン発電装置による発電の状況について発電所内のコントロールルームや発電装置等を案内いただき、説明を受けた。世界一発電効率の良い川崎重工業の7,000kwクラスの発電装置が5基設置されており、定期点検については日本から技術者の派遣によりアフターサービスが行われている。

この施設はルースキー島、主に極東連邦大学に電力及び給湯(コ・ジェネレーション)を提供するための施設であり、一部は、市内にも配電している。沿海地方の規則では8℃以下が5日間続くと稼働する。



(熱併給発電所の視察)



(ガスタービン設備の説明)

## (5) 極東連邦大学テクノパーク視察

- ① 日 時：令和元年8月22日（木）9:45-11:00
- ② 場 所：極東連邦大学テクノパーク（ルースキー島）
- ③ 参加者：

（極東連邦大学側）

ボロヴィスク テクノパークCEO、ヤスコフ極東連邦大学副学長（発展担当）、シェチュエルバン極東連邦大学副学長（国際担当）、プストポイト極東連邦大学東洋研究所所長、セヴァンコフ極東連邦大学アドバイザー（国際関係担当） ほか全12名

（兵庫県側）井戸知事、伊藤経済訪問団団長、水口国際局長、経済訪問団員 ほか全24名

- ④ 内容：

ルースキー島の極東連邦大学を訪問し、テクノパークを視察した。9月には安倍総理も参加予定の「東方経済フォーラム」が同大学で開催される。

極東連邦大学は、市内と近郊の9つの大学が統合して、2012年のロシアAPECにあわせてルースキー島に移動した。また、プストポイト東洋研究所所長は日本語学者で、神戸学院大学と交流があり、今年中に協定を結ぶ予定である、との説明があった。

テクノパークは、極東全体にスタートアップ環境をつくるために設立された機関で、2017年に発足し、スタートアップ企業は現在70社程度。テクノパークとは、場所を指すのではなく、人であり、素晴らしい企業が揃っているため日本企業と提携すれば、大きな成果を得られると認識しており、兵庫県との交流を深めたい、と期待が述べられた。

その後、経済訪問団企業とテクノパーク企業との名刺交換が行われた。



（プレゼンテーションの様子）



（記念撮影）

## (6) ウラジオストク現代美術センター視察

- ① 日 時：令和元年8月21日（水）16:00-17:00
- ② 場 所：ウラジオストク現代美術センター
- ③ 参加者：

（センター側）マリーナ ディレクター、ラムジィーナ（展示作品作者）ほか全6名  
（兵庫県側）井戸知事、水口局長ほか 全5名

- ④ 内 容：

ウラジオストク現代美術センターは2013年に設立された現代美術館であり、立地するザリャー地区は、旧ソビエト連邦時代の縫製工場を再整備して造られた芸術エリアである。2014年からは、極東地域で初となる「アーティスト・イン・レジデンス」（多様な分野の芸術家を招聘し、一定期間生活を行うことにより、新たな芸術の創出を目指すプロジェクト）を開始し、国内外の芸術家を招聘している。市内美術館ディレクターや作品の製作者を交え、センターの運営や沿海地方の文化の方向性等について意見交換を行い、その後作者の案内で展示作品を見学した。



(意見交換を行った作家の作品を鑑賞)

### 3 渡航日程

月日	日 程	備 考
8月19日 (月)	関空発(仁川経由)ハバロフスク着 ニューリーダー研修終了者等との意見交換会	ハバロフスク泊
8月20日 (火)	日本人墓地墓参 ひょうご・神戸経済セミナー、企業懇談会(日本センター) 在ハバロフスク日本国総領事館訪問 フルガル知事との交流協議・共同声明調印式(地方政府公館) 記念レセプション	ハバロフスク泊
8月21日 (水)	ハバロフスク発、ウラジオストクへ移動 沿海地方政府訪問 ウラジオストク現代美術センター視察 在ウラジオストク日本国総領事館訪問	ウラジオストク泊
8月22日 (木)	現地企業等視察(極東電力、極東連邦大学テクノパーク) ウラジオストク発(仁川経由)関空着	

#### 〈別添資料〉

- 1 兵庫県訪問団名簿
- 2 兵庫県・ハバロフスク地方友好提携 50 周年記念共同声明
- 3 ハバロフスク地方公営 A. ピオトロビッチ記念こども病院と兵庫県立こども病院における協力に関する覚書
- 4 ひょうご・神戸経済セミナー資料
  - (1) 井戸知事プレゼンテーション資料「ひょうご・神戸の経済を支える産業の魅力」
  - (2) 経済訪問団参加企業・団体の紹介
  - (3) ハバロフスク地方の参加企業・団体リスト
- 5 行程図

(問い合わせ先)

産業労働部国際局国際交流課交流企画班交流推進担当

TEL : 078-362-9017